



一中だより

2月号
令和3年2月1日
小平市立小平第一中学校

■進路を考える「構え」

校長 栗林 昭彦



いよいよ2月。3年生の進路選択も最大の山場です。この一か月で多くの3年生は進路が決まります。今年はコロナの影響で例年とは異なる部分もあり、不安や苦労もありかもしれませんが、一か月後には皆が笑顔で卒業に向かっていけるよう祈るばかりです。

さて、昨年末の文部科学省の発表によると、大学進学率は54.4%と過半数を上回り、短大、専門学校を含めた進学率は83.5%。高卒で就職する人は圧倒的に少数派というのが現状です。3年生と面接練習の中でも、「高校卒業後どうするか」と問うと、「大学に行きたいと思う」という人が大半でした。一方で、「大学でどんな勉強をしたいのか」という問いに対しては具体的に考えていない人もいて、大学に行くこと自体が、半ば当然のことになっているように感じられました。面接練習では、自分の将来に具体的なイメージをもって話してくれた人もいました。獣医になりたいとか美容師になりたいとか、具体的な目標をもっている人は、高校や大学に進学し、そこで勉強している自分についてのイメージがあり、話にも説得力がありました。無論中学卒業の時点で将来の職業を決定しなければならないわけではないですが、目標や希望をもつことの大切さを改めて感じました。

コロナの影響で2年生の職場体験が中止になったりと、1，2年生の進路学習も予定の変更を余儀なくされています。本校ではその時々の「なりたい自分」についてしっかりと考え、その実現に向け努力できるような力をつけさせるねらいで、1年生からの進路学習を実施しています。自分の望む進路の実現に向けた心構えを1，2年でしっかり作り、そのためのベストを選択し挑んでいく。3年生の、誠実に真摯に努力する姿を見ながら、1，2年生も多くを学んでくれていることと思います。

